

平成28年度学校自己評価システムシート（県立特別支援学校さいたま桜高等学園）

目指す学校像	個々の生徒の持てる力を最大限に発現できる教育実践により、一般就労率100%を目指す
--------	---

重点目標	<p>1 個々の生徒の能力や適性を踏まえ、働く力を高めるための授業づくりを推進する。</p> <p>2 進路指導部を中心に、学科・学年・学級の協働と保護者との連携により、個を生かす就労支援を推進する。</p> <p>3 生徒の自己理解を深め、3年間の学校生活を通して意欲や社会性を育てる。</p> <p>4 特別支援教育のセンター的機能や地域と連携・共同した活動を一層推進する。</p>
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	10名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)	
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<p>○平成27年度に働く力を明確にし、各領域・教科の学習内容を整理した。ベテラン教員の授業見学会及び教科毎の授業見学会などを通して、働く力を高めるための授業づくりを推進している。</p> <p>□10年間の実践等を整理し、必要な見直しを行って、次の10年に向けて本校の特色ある教育課程を更に充実させていく必要がある。</p>	<p>・個々の生徒の能力や適性を踏まえながら、働く力を高めるための授業力の向上を図る。</p>	<p>①授業観察研修や事例研究などを通して、教職員間の学び合いを推進する。</p> <p>②教育課程検討委員会を中心に各教科・領域の学習内容の改善を図る。</p> <p>③これまでの10年間の取組を、10周年記念誌の発行に合わせて整理するとともに、中長期的な視点で教育課程の在り方を研究・検討する。</p>	<p>①教職員一人一人が研修等に主体的に参加することができたか。</p> <p>②職業教育、専門教科をはじめ各教科・領域の学習内容の相互の関連を考慮して整理・検討できたか。</p> <p>③10周年記念誌における実践のまとめを活用し、良さを継承していく意識が高められたか。</p>	<p>①6/21の全体研修会において、「10年の歩み」を実施。7/28には外部講師を招いて「知的障害を起因とする二次障害」の全体研修会を実施。2/21に全校で事例研修会を行う予定</p> <p>8/26、12/19には、本校において羽生ふじ高等学園及び入間わかき高等支援学校の3校で学び合いの合同研修会を実施。</p> <p>②③10周年記念誌の内容の一部として各教科領域における3年間の指導内容をまとめ関係機関等へ配布した。</p>	B
2	<p>○研修などにより就労支援に対する教職員の共通理解を図りながら、生徒の支援にあたり、継続して高い一般就労率を実現している。</p> <p>□就労支援に対する教職員の共通理解を更に進めると共に、担当や担任、保護者が効率的に連絡調整できるような方法に更に改善・工夫していく必要がある。</p>	<p>・教職員の共通理解により、個を生かす就労支援を達成する。</p>	<p>①就労支援に関わる業務内容と役割分担を見える化し、保護者との連携も十分に進めながら改善・工夫を進める。</p> <p>②進路指導部を中心に保護者の進路に対する意識への理解啓発を図る。</p>	<p>①関係者の適切な連携により、効率的な支援を進めることができたか。</p> <p>②保護者の就労に関する意識が高まったか。(保護者アンケート)</p>	<p>①4月に職員会議にて役割分担表を配布し共通理解を図りながら指導を推進した。</p> <p>②保護者向け就労支援勉強会を6回、企業見学会を4回行った。進路だよりを23号発行し、就労に関する情報を提供して理解啓発を図っている。年度末に行う保護者アンケートで保護者の意識の確認を行っているが、明確な意識の向上は確認できなかった。</p>	B
3	<p>○チェックシートを活用し、生徒との複数回の個別面談を行い、一人一人の成長と課題を把握し指導に当たっている。</p> <p>□入学後の安定した学校生活が送れるよう学年・学級での集団づくりに配慮すると共に、本人・保護者との相談を通して自己理解・社会性を育てる必要がある。</p>	<p>・学校生活を充実させ社会自立への意欲を高める。</p>	<p>①チェックシート等により、プランBに個々の課題を焦点化させ、指導にあたる。</p> <p>②道徳・自立活動やLHRの授業を整理・充実させ、集団生活の楽しさや社会性の育成につなげる。</p> <p>③担任による個別相談や臨床心理士との相談を活かす。</p>	<p>①チェックシート等を十分に活用し、生徒個々の課題の改善が図れたか。</p> <p>②道徳・自立活動やLHRの授業内容の整理ができたか。</p> <p>③個々の生徒が安定して充実した学校生活がおくれたか。</p>	<p>①1年生はチェックシートを5月に記入し作成し、それを基にプランBを作成し保護者に提示、9月に中間評価。2・3年生は、9月に中間評価を行い、1月～2月に年度末の評価を行いプランに反映させ面談を行った。</p> <p>②教科自立活動部を中心に授業内容の整理を行った。</p> <p>③生徒・教員・保護者と臨床心理士との相談は延べ55件、校医との相談2名を行い、専門的な立場からアドバイスをいただいた。長期欠席者：4名、退学者2名</p>	B
4	<p>○桜区、地域自治会や関係機関等との連携、製品の販売活動も定着している。新たにカフェ「桜家」や保育園との交流等にも取り組み、地域の期待に応え信頼される学校づくりが進んでいる。</p> <p>□本校の専門的な教育内容や教職員の専門性を生かし、地域のニーズに応えながら、地域支援を活性化していく必要がある。</p>	<p>・障害のある生徒の就労支援等、本校の特性を生かした支援の充実を図り、共生社会の基礎づくりを推進する。</p>	<p>①地域ニーズに対応し、プラザ、ショップ、カフェでの販売活動、地域行事への参加や地域の学校との交流及び共同学習を充実させる。</p> <p>②コーディネーターを中心として高等学校、企業への支援を行うとともに、就労支援等のセンター的機能の取組を発信する。</p>	<p>①地域ニーズを把握し、充実・工夫ができたか。</p> <p>②高等学校や企業のニーズに応えた支援の実施・発信ができたか。</p>	<p>①氷川神社納涼祭(7/23)、アザウェスト木工教室(8/6)、親子環境教室(7/29,8/2)、敬老会(10/8)、区民まつり(10/15)、地域住民との北浦和清掃(10/12,11/9)及び保育園の芋ほり(10/25・27)、彩の子ネットワークとの赤ちゃんとのふれあい体験(3年:10/19,10/28)など、地域ニーズを踏まえて開催した。</p> <p>②高等学校から4件の相談があり対応。新たな企業約29社から障害者雇用の相談があり対応。そのうち13社で採用、25社で実習が進んだ。その他、埼玉経済同友会、埼玉県雇用対策協議会にも障害者雇用に係る情報提供を新たに実施した。</p>	A

学校関係者評価	実施日 平成29年2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・10年目の節目として、精力的に学校運営がなされている。10年の蓄積を今後どのようにつなげていくのかが重要。曖昧ではなくしっかりと表現しておくことが必要である。同時開校した羽生ふじ高等学園の実績も含め「働く力を高める授業力」とはどんなものか、具体策をまとめる等も検討してほしい。</p> <p>・就職ではなく定着が目的。働き続けるために、学校と保護者が同じ目線で支援することが必要。卒業時点の生徒個々の適性を見極め、多様な進路選択があつてよい。</p> <p>・卒業生は550人を超えている現状、離職の原因の分析や定着に向けての支援、卒業後の学校の役割を明確にし、定着にむけた支援機関や保護者への引継ぎ体制の確立が必要である。</p> <p>・臨床心理士の活用について、個別の面談で解決できる例は限られているため、ケース会議等を行なうなども含め、さらに効果的な活用を検討してほしい。保護者への相談先としても何ができるのか、生徒の相談する力の育成と併せて相談者への情報提供等も行なう必要がある。</p> <p>・入学前は大人主導で周りが気づいてあげてきたことが多いが、「自分の気持ちに気づく」ことを大切にしたい授業や支援を行ってほしい。</p> <p>・自治会の行事への参加は大変感謝している。引き続き地域行事への参加を期待している。地元の企業や現場実習先との間に入れることがあれば協力をしていきたい。</p> <p>・地域人材の活用等について、授業への参加の仕方等を相談し、よりよい方法を考えていく必要がある。</p>

